JAFAMEニュース

NO.28 June 2025

アジア市場経済学会第28回全国研究大会（2024年度）が2024年6月29日（土）・30日（日）（対面開催、於：京都女子大学）に、第1回（2024年度）冬季全国研究大会が2024年12月7日（土）（オンライン開催）に、日本貿易学会西部部会ならびにアジア市場経済学会西部部会合同研究報告会が2025年2月8日（土）（ハイブリッド開催、於：広島経済大学立町キャンパス）に開催されました。各研究会実行委員・事務局の先生方並びに関係スタッフの方々のご尽力に心より御礼申し上げます。

第29回全国研究大会（2025年度）は、2025年6月28日（土）・29日（日）に、金沢大学で開催されます。研究活動の活性化を通じて、更なる学会の発展を目指したいと考えておりますので、学会員の皆様には一層のご協力を賜りますようお願い致します。また、学会の運営に関しまして、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せください。

今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号の主な内容

Ⅰ．会長挨拶
Ⅱ．アジア市場経済学会第 29 回全国研究大会のお知らせ
Ⅲ．2024 年度全国研究大会報告・部会報告
Ⅳ．学会の運営に関する事項
Ⅴ．2024 年度海外視察報告
Ⅵ．学会賞（著作、口頭発表）選考経緯

アジア市場経済学会
Japan Academy for Asian Market Economies
HP: http://www.jafame.jp/

〒920-1192
石川県金沢市角間町
金沢大学人間社会研究域
張婧研究室内
MAIL: j-zhang@staff.kanazawa-u.ac.jp

Ⅰ．会長挨拶

会長　藤岡資正
(明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授)

本年は「国際化」と「社会化」の推進という村松潤一前会長が示した基本方針を引き継ぎ、事務局長(張婧先生)、東西副会長(松尾仁先生・中井教雄先生)および学会執行部・会員の先生方の協力を得ながら、基本方針を具現化するための取り組みを推進してきた。同時に、アジア市場経済学会の特徴である学際性を活かした領域横断での研究会や若手研究者や実務家との交流などを推進することで、学会活動の活性化と基盤強化を図ってきた。

本学会は、学会名がアジア市場経済学会であることから、従前より国際化の重要性は広く学会内で共有されていた。しかし、アジア諸機関との連携の強化やアジアの研究者や第一線で活躍する実務家との交流は必ずしも十分であったとはいえない。そこで、学会としての質を担保しつつも、基本方針を具現化するために、以下のような取り組みを進めている。

企業や産業界との連携を推進するために設置されたグローバルアジア研究所(GARC: Global Asia Research Center)では、村松潤一所長を中心として理論と実務の融合を図るための領域横断的な研究会を定期的に開催している。また、アジアを舞台とする国際化については、国際交流員会(専修大学・高橋義仁委員長)と GARC が協力して海外視察を企画した。2025 年 3 月にはタイ・サイアム大学にて研究交流を行い本学会からは 8 名が現地参加・15 名がズーム参加し、サイアム大学からは学長・副学長・研究科長・学部長・博士課程の院生など約 18 名が参加した。結果として、金沢大学で開催される第 29 回全国研究大会(大会実行委員長・張婧先生)にて、サイアム大学 Pornchai Mongkhonvanit 学長による国際基調講演および国際交流セッション(英語セッション)では、同大学経営学研究科長および 2 名の大学院生による研究報告が行われることになった。

また、アジアを中心とした産業界との連携については、本年度はジェトロバンコクと共催でバンコク(サシン経営大学院)にて 2 度ほどセミナーを開催し、それぞれ約 100 名の現地参加者があった。第 29 回全国研究大会(金沢大学)の基調講演では、タイに多くの店舗を展開する金沢の企業である株式会社ハチバン様より吉村由則専務取締役を招聘し日系企業のアジア展開についてご講演いただく予定となっている。このような活動を通じて、引き続き、アジア化・社会化という両輪を強化していくことになる。具体的には、アジアの産業界との連携はチュラロンコン大学サシン経営大学院と協力をし、若手研究者の交流やアジア研究者との研究交流については、サイアム大学と協力をしながら進めていくことが学会方針として理事会にて承認された。

研究活動の活性化という点では、研究委員長の河知延先生(近畿大学)を中心に冬季全国研究大会の開催、京都女子大学の江向華先生を中心に若手研究者の会が継続的に開催されており、従前に比べてより多くの研究報告の機会が設けられている。また、編集委員長の今村一真先生(茨城大学)を中心として学会誌の査読体制の構築やオンラインジャーナル化への

対応が図られており、総務委員長の曽我寛人先生(釧路公立大学)を中心に JAFAME ニュースや HP の更新が定期的に行われている。

今後は、学会として質の高い学際的な研究を担保しつつも、国際化と社会との連携の推進を堅固なものとするための取り組みを継続し、理論と実務の融合を図っていくことで、アジア市場経済学会の魅力を高め、学会の発展に確実に結び付くことを祈念している。

2025 年 5 月 7 日 アジア市場経済学会会長 藤岡資正

Ⅱ．アジア市場経済学会第29回全国研究大会のお知らせ

第29回全国研究大会
実行委員長 張婧(金沢大学)

拝啓 歳末の候、会員の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと存じ上げます。さて、2025 年度のアジア市場経済学会第 29 回全国研究大会につきましては、統一論題『文化的多様性と経済成長：アジア経済における適応とイノベーション』をテーマに開催することとなりましたので、ご案内申し上げます。

アジアの文化的多様性は、単なる地域特性に留まらず、経済政策、経済活動や企業戦略に深く関わる重要な要素である。異なる文化や価値観のもとでの経済政策が、消費者の市場行動に影響を与え、それが企業の競争戦略やイノベーションの動機となり、地域経済ごとの適応力が競争力の源泉として重要視されるようになっている。そこで、会員の皆様にはアジア市場経済学に関する様々な角度から、この「文化的多様性と経済成長」といった問題にアプローチしていただき、新たな理論の提示や実践のための方法等について発表していただければと思います。そして、参加いただいた会員の皆様との活発な議論を通して、本学会のますますの発展に寄与したいと思います。

最後になりましたが、今大会の実行委員会として、多くの方々の学会への参加と積極的な発表を心より期待しております。

敬具

記

1.日時：2025 年 6 月 28 日(土)：発表会、会員総会および懇親会
29 日(日)：発表会
2. 会場：金沢大学角間キャンパス
3. 発表(統一論題・自由論題とも)の申し込みについて

（1）申込方法：下記の回答フォームから必要事項をご記入の上申し込んでください。アジア市場経済学会第 29 回全国大会発表申込み - Google フォーム 発表申込者には、審査用発表要旨、公開用発表要旨のフォーマットを送ります。

（2）問い合わせ先：実行委員会副委員長 江向華（京都女子大学） E-mail: kok@kyoto-wu.ac.jp

（3）申込締切日：2025 年 1 月 31 日(金)

4. 発表要旨の提出および発表の可否について 発表希望者は、審査用発表要旨(A4 で 4 頁、なお、執筆に際しては、背景、問題意識、目的、方法、結果、考察、結論について触れて下さい)、公開用発表要旨(A4 で 1 枚)を提出して下さい。

(1) 提出先：プログラム委員会委員長 河知延（近畿大学） E-mail: ha@fuk.kindai.ac.jp

(2) 締め切り：2025 年 3 月 31 日(月)

(3) 発表の可否：審査用発表要旨にもとづいて発表の可否が決まります。結果は 2025 年 4 月中旬 に本人に通知されます。なお、審査基準は論文査読基準（関連性・貢献、新規性、有用性、信頼性、完成度）に準じます。

5. 口頭発表賞（国内セッション、国際セッション)について 2023 年度より口頭発表賞が設けられています。審査用発表要旨および当日の発表内容にもとづき審査し、後日、学会賞、奨励賞、院生賞の該当者を発表します。

以上

［アジア市場経済学会 第 29 回(2025 年)全国研究大会 統一論題及び趣意書］
文化的多様性と経済成長：アジア経済における適応とイノベーション

近年、アジア経済の成長は目覚ましく、多様な文化的背景を持つ国々がそれぞれの発展を遂げる中で、グローバル経済との相互関係が一層深まっている。アジアは、人口規模や市場の多様性から見ても、世界経済の成長エンジンとして重要な位置を占めており、その中で文化的な多様性がどのように経済政策に反映し、そして、経済活動に影響を与えているか、また、企業がどのようにして文化的多様性を取り込んでいるのか等、明らかにすべき課題もそこから見えてくる。

アジアの文化的多様性は、単なる地域特性に留まらず、経済政策、経済活動や企業戦略に深く関わる重要な要素である。異なる文化や価値観のもとでの経済政策が、消費者の市場行動に影響を与え、それが企業の競争戦略やイノベーションの動機となり、地域経済ごとの適応力が競争力の源泉として重要視されるようになっている。

従来、アジアの経済成長は豊富な資源や労働力に依存してきたが、今後は文化的多様性に対する柔軟な適応と新しい価値を生む創造性が成長の鍵を握ると思われる。

第 29 回全国研究大会では、アジア市場が多様な文化的背景とどのように共存し、成長しているかについて、多角的な視点から議論を深める場を提供したいと考えてい

る。文化的多様性は、これまで、克服すべき課題として捉えられがちであったが、実際には豊かな異文化交流によってさまざまな成長機会が生まれている。各国の市場状況や産業の発展段階が異なることで、独自の適応策やイノベーションの契機が得られ、異文化間の理解と協調によって新たな競争力が生み出されている。

例えば、多様な文化的特性のもとでなされる経済政策の違いが経済成長にどのような差異をもたらしているのか、また、多様な消費者ニーズや異なるビジネス慣行あるいは規制環境に応えることで企業はどのようにして新たな競争力を構築しているのか、といった研究課題を「適応とイノベーション」といった視点から明らかにすることは、きわめて関心の深いものといえる。言い換えれば、こうした異文化への適応は、企業に限らず、地域や国レベルにおける様々な経済組織において求められているのであり、それは、何らかのイノベーションが原動力となるとともに、そのこと自体が新たなイノベーションの源泉とも成り得る。必要なことは、文化の違いを真摯に理解し、地域の特性を活かしつつ、持続可能な経済成長あるいはビジネスモデルをグローバルな視点から構築することにある。

第 29 回全国研究大会では「文化的多様性と経済成長」を中心テーマに据え、アジア経済の発展における可能性と課題を討論し、理論と実務の両面から新たな研究の方向性を探る契機としたいと考えている。アジア経済における文化的多様性の意義と、それがもたらす経済成長の可能性についての深い理解を得るとともに、学術と実務の観点から貴重な知見を提供する場となることを期待している。

会員各位による学術的議論と経済政策立案や企業行動における戦略的アプローチの考察を通じて、新たな視点からの洞察が共有され、アジア市場経済学のさらなる発展が促されると確信している。また、本大会を通じ、次世代におけるアジア市場経済学の可能性がさらに拓かれることを期待している。

2024 年 12 月吉日 アジア市場経済学会
第 29 回全国研究大会実行委員会、プログラム委員会

Ⅲ. 2024 年度全国研究大会報告・部会報告

1. 全国研究大会開催報告

第28回全国研究大会
開催日：2024年6月29日（土）・30日（日）
開催場所：京都女子大学

[自由論題セッション A] (E 校舎 104-2 教室) 6 月 29 日(土)10:00～11:05
座長：江向華（京都女子大学)

10:00～10:30

第 1 報告「製造大国のジレンマ：長期継続的取引関係と経済成長」

発表者：落合宏（帝京大学)

コメンテーター：飯島高雄（近畿大学)

10:35～11:05

第 2 報告「ASEAN-EU 経済関係とアジア太平洋経済圏」

発表者：鈴井清巳（京都産業大学)

コメンテーター：石川幸一（亜細亜大学アジア研究所)

[自由論題セッション B] (E 校舎 101 教室) 6 月 29 日(土)10:00～11:05
座長：村松潤一（岐阜聖徳学園大学)

10:00～10:30

第 1 報告「日系航空会社マイレージ会員の価値に関する事例研究-サービス･ロジックの観点からインタビュー調査を中心に-」

発表者：佐々木大輝（ANA あきんど 株式会社)

コメンテーター：藤岡芳郎（大阪産業大学)

10:35～11:05

第 2 報告「サービス視点から捉えた生命保険営業の現状と課題に関する研究ーP 社の事例を通じた価値共創についてー」

発表者：松本誠也（プルデンシャル生 命保険株式会社)

コメンテーター：石川和男（専修大学)

[自由論題セッション C](E 校舎 102 教室) 6 月 29 日(土)10:00～11:05
座長：亀岡京子（東海大学）

10:00～10:30

第 1 報告「美的集団の優位性構築のプロセス―1991 年までの経済政策に着目して―」

発表者：藤本（金）海艶（九州大学大学院)

コメンテーター：曽我寛人（釧路公立大学)

10:35～11:05

第 2 報告「東南アジアにおける移民起業家-ソーシャル・キャピタル理論からの探索的研究-」

発表者：高木啓介/鈴木一央（金城大学／andAsia(株))

コメンテーター：中村友哉（兵庫県立大学)

[統一論題](E 校舎 103 教室) 6 月 29 日(土)11:15～12:15
司会：春日尚雄（亜細亜大学）
題目：「グローバルサプライチェーン再編の見通し～アジアを中心に～」
講演者：若松勇（日本貿易振興機構（ジェトロ）調査部長）

[基調講演](E 校舎 103 教室) 6 月 29 日(土)13:00～13:35
司会：藤岡資正（明治大学）
題目：「アジアとの共生：京都府の取り組み」
講演者：山下晃正（京都府参与・前副知事）

[KeynoteSpeechSession]（E 校舎 103 教室）6 月 29 日(土)13:40～14:10
Introduction of Keynote Speaker Chairperson：Takamasa Fujioka (Meiji University)
Special Keynote Speech:「Circular Economy in Thailand：A Case of Battery Recycling」
Charoenchai Khomtraporn (King Mongkuts University of Technology Thonburi)

[International Session] (E 校舎 103 教室) 6 月 29 日(土)14:20～15:25
座長：藤岡資正（明治大学)
14:20～14:50
第 1 報告「The geostrategic effecton ASEAN by the southward policy of Chinese automotive industry and the development opportunity for Japanese companies」
Hiroshi Iwai (Hino Motors Asia Ltd.)
14:55～15:25
第 2 報告「A Potential of Buddhist Approach to Sustainable Growth of Thai Firms：A　preliminary study on the Sufficiency Economy Philosophy」
Vasu Srivibha (Chulalongkonrn University), Takamasa Fujioka (Meiji University)

[自由論題セッション D](E 校舎 101 教室)　6 月 29 日(土)14:20～16:00
座長：中井教雄（広島修道大学)
14:20～14:50

第 1 報告「立地型小売業の海外市場創造」
発表者：星田剛（安田女子大学）
コメンテーター：藤岡芳郎（大阪産業大学）
14:55～15:25
第 2 報告「タイ・ベトナムにおける日系企業の国際化に関する実証分析―
NEOK モデルの要素を中心に―」
発表者：曽我寛人（釧路公立大学）
コメンテーター：松尾仁（東京福祉大学）
15:30～16:00
第 3 報告「産学連携による地方企業の海外進出の可能性についての一考察
- PBL 活動の成果から-」
発表者：瀧田修一（東亜大学）
コメンテーター：河知延（近畿大学）

[自由論題セッション E] (E 校舎 102 教室) 6 月 29 日(土)14:20～16:00
座長：今村一真（茨城大学）
14:20～14:50
第 1 報告「ライブコマースにおける社会的存在感の役割―中国消費者を対象とする
調査からの考察」
発表者：董燕、張婧（金沢大学大学院、金沢大学）
コメンテーター：坂田裕輔（近畿大学）
14:55～15:25
第 2 報告「中国市場における顧客接点を活かしたマーケティング戦略～小米之家の
事例をもとに～」
発表者：劉燕（大阪産業大学大学院）
コメンテーター：張婧（金沢大学）
15:30～16:00
第 3 報告「オンライン医療アプリの技術受容性と使用意図」
発表者：王欣、亀岡京子（東海大学大学院、東海大学）
コメンテーター：柯麗華（静岡県立農林環境専門職大学）

GARC セッション(E 校舎 102 教室) 6 月 30 日(日)10:00～11:40
座長：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）
10:00～11:05
題目「パネルディスカッション―理論と実践の融合」

パネリスト：経済系　中井教雄（広島修道大学）
商学系　張婧（金沢大学）
経営学系　中村友哉（兵庫県立大学）
ファシリテーター：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

11:10～11:40
第 1 報告「ASEAN 中小企業の国際化戦略に関する予備的調査（SIG）」
発表者：三浦佳子（長崎県立大学）
コメンテーター：鈴井清巳（京都産業大学）

[自由論題セッション F](E 校舎 101 教室) 6 月 30 日(日)10:00～12:15
座長：松尾仁（東京福祉大学）

10:00～10:30
第 1 報告「中国市場におけるもてなしを活かした小売戦略の一考察～胖東来（パントンライ）の事例をもとに」
発表者：張善会（岡山理科大学）
コメンテーター：星田剛（安田女子大学）

10:35～11:05
第 2 報告「インドネシアにおける海外直接投資とスピルオーバー効果」
発表者：中村和敏（九州産業大学）
コメンテーター：新本寛之（広島修道大学）

11:10～11:40
第 3 報告「中国電気自動車メーカーによる海外生産と流通展開」
発表者：石川和男（専修大学）
コメンテーター：江向華（京都女子大学）

11:45～12:15
第 4 報告「日本中小ファミリービジネスにおけるネットワークを用いたソーシャル・キャピタルの維持に関する考察ーFIBER 尺度を用いた事例研究ー」
発表者：山本さやか（株式会社南大通ビル）
コメンテーター：張婧（金沢大学）

[自由論題セッション G] (E 校舎 103 教室) 6 月 30 日(日)10:00～12:15
座長：河知延（近畿大学）

10:00～10:30
第 1 報告「フェアトレード情報の商品選択への影響力とは？」
発表者：太田壮哉、坂田裕輔、飯島高雄（近畿大学）
コメンテーター：丸谷雄一郎（東京経済大学）

10:35～11:05
第 2 報告「オムニチャネルにおける物流 サービス品質が消費者購買意欲に及ぼす影響に関する研究」
発表者：王慧娟（山口大学)
コメンテーター：今村一真（茨城大学)
11:10～11:40
第 3 報告「アジア経済と女性の活躍推進ーアントレプレナーシップとジェンダーギャップの関連性についてー」
発表者：加藤あい（株式会社スマイルリボン)
コメンテーター：高橋義仁（専修大学)
11:45～12:15
第 4 報告「新興国市場における零細小売のソーシャルコマース戦略」
発表者：チャン・ティ・トゥイエト・ニュン（愛知東邦大学)
コメンテーター：村松潤一（岐阜聖徳学園大学)

２．冬季全国研究大会開催報告

第 1 回冬季全国研究大会
開催日：2024 年 12 月 7 日（土）
開催方法：Zoom

開会挨拶 藤岡資正（アジア市場経済学会会長、明治大学）
13:10～13:55
座長：高橋義仁（専修大学）
【特別講演】 「中国大学生の最新の就職動向と新たな課題」
発表者：琴安国（一般社団法人 高度外国人材支援センター）
13:55～14:30
第 1 報告「日本の人口減少と外国人労働力（労働移民）の受け入れ」
発表者：西澤信善（東亜大学)、飯島高雄（近畿大学）
コメンテーター：西口清勝（立命館大学）
14:30～15:05
第 2 報告「外国人技能実習制度の効用と課題～ベトナム実習生教育機関の調査」
発表者：高橋義仁（専修大学）
コメンテーター：飯島高雄（近畿大学）
15:10～15:40

第 3 報告「コーヒーパッケージに含まれる生産者情報の掲載意図～タイのコーヒー産業の調査報告」
発表者：坂田裕輔、河知延、太田壮哉（近畿大学）
コメンテーター：今村一真（茨城大学）

15:45～16:20

第 4 報告「在タイ日系産業財メーカーと現地国販売代理店とのリレーションシップ発展プロセスとネットワーク活用に関する研究：日系アスファルトプラントメーカーN 社における事例研究」
発表者：川村健吾（日工株式会社／明治大学大学院）
コメンテーター：村松潤一（岐阜聖徳学園大学）

閉会挨拶 松尾仁（東部副会長、東京福祉大学）

3. 合同研究会開催報告

日本貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会
開催日：2025 年 2 月 8 日（土）
開催場所：広島経済大学立町キャンパス

開会挨拶 中井教雄（アジア市場経済学会副会長、広島修道大学）

14:35～15:25

第 1 報告「日米農産物貿易の動向―ヴェールを纏った米国の『余剰農産物輸出』と、その真意―」
発表者：住宅亨介（岡山理科大学附属高等学校講師）
コメンテーター：大藪亮（岡山理科大学）

15:35～16:25

第 2 報告「リージョナリズム再考－EU 通商政策の地域間主義の視点から」
発表者：鈴井清巳（京都産業大学教授）
コメンテーター：飯島高雄（近畿大学）

閉会挨拶 河野公洋（日本貿易学会会長、岐阜聖徳学園大学）

Ⅳ．学会の運営に関する事項

[0]. 第 28 回(2024 年度)会員総会
2024 年 6 月 29 日

アジア市場経済学会
会長　藤岡資正

記

議題

Ⅰ　2023 年度事業報告ならびに決算報告

1　会長報告
2　副会長報告
3　総務委員会報告
4　研究委員会報告（資料１）
5　編集委員会報告
6　国際交流委員会報告
7　グローバルアジア研究センター（資料２）
8　社会連携 WG 報告
9　若手の会
10 日本経済学会連合評議員報告
11 決算報告（資料３）
12 監査報告（資料４）

Ⅱ　2024 年度事業計画および予算案

1　会長報告
2　副会長報告
3　総務委員会報告
4　研究委員会報告
5　編集委員会報告
6　国際交流委員会報告
7　グローバルアジア研究センター
8　社会連携 WG 報告
9　若手の会
10 日本経済学会連合評議員報告
11 予算案（資料 5）

Ⅲ　会員の入退会について

Ⅳ　その他

議　題

Ⅰ　2023 年度事業報告ならびに決算報告

1　会長報告

(1)会長挨拶

会長　藤岡資正
（明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授）

会長の就任にあたり、村松潤一前会長のもと推進してきた「国際化・社会化」という基本方針を引き継ぎ、学会執行部および会員各位ともにさまざまな取り組みを行ってきた。学会の「国際化」と「社会化」は互いに関連するものであるが、こうした活動を通じて理論と実務の融合を図ることで質の高い研究を蓄積していくことはもとより、社会との接点を充実していくことで若手研究者や実務家にとっても魅力ある学会とすることで基盤強化にもつながるという共通認識に基づいている。以下では、この一年間の取り組みについて簡単に振り返ることにしたい。

はじめに、「国際化・アジア化」について、第 28 回全国研究大会（京都女子大学）においてもコロナ禍にて定着した遠隔会議システムを活用した国際セッションの運営を行うことで国外研究者及び海外駐在員による報告の場を提供した。また、長らくパンデミック下で中断を余儀なくされていた海外視察も再開され、高橋義仁国際交流委員長らが、チュラロンコン大学サシン経営大学院及びサイアム大学にて交流を行った。

続いて、「社会化の推進」については、グローバルアジア研究所(GARC)が立ち上がり、村松潤一所長（岐阜聖徳学園大学）・藤岡芳郎副所長（大阪産業大学）を中心に、定期的に研究会が開催されており、岡田康孝社会化推進ワーキンググループ長とも連携することで、研究者のみならず、海外駐在員、国際機関、官公庁関係者などを中心に相当数の研究報告が行われている。また、チュラロンコン大学サシン経営大学院と共催でタイ・バンコクにて本学会共催の現地セミナーを 2 度開催し、いずれのセミナーにおいても 100 名以上が参加し、現地メディアにも取り上げられるなど反響が大きく，当学会からも延べ 30 名以上が参加した。

また、基盤強化や理論と実務のより一層の融合を図るためには学会の知名度の向上が重要であることから、本年度から学会共催の研究会や講演会等を積極的に推進している。2023 年 10 月には高橋義仁（専修大学）国際交流委員長による「インドとの協力によるサプライチェーンの強靭化」（専修大学商学研究所主催：アジア市場経済学会共催）シンポジウムが開催され、経済産業省から登壇者を招くなど活発な議論が行われた。直近では、2024 年 3 月 14 日に GARC のプロジェクトとして、本学会・サシン経営大学院共催（NEDO, Sansan, Arayz 社など後援）による『価値共創セミナー：理論と実際』を開催し、村松潤一所長の基調講演の後、ブリヂストン社、キャノン社から現地責任者を招

聘し、アジアでの価値共創事例についてパネルディスカッションが行われた。当日は、現地日系企業約 100 社が参加し、当学会からは 6 名が現地参加、15 名がズームで参加し、現地メディアにも多く取り上げられるなど大きな注目を集めた。このように、国際化と社会化は着実に前進しつつある。

研究会に関しては、中井教雄西部副会長(広島修道大学)・松尾仁東部副会長(東京福祉大学)を中心に、日本貿易学会との共催の部会が継続開催されている。また、河知延研究委員長を中心として、全国研究大会における報告に対する賞を設けることで研究の活性化を図っており、学会賞に関する規定や審査プロセスなどを明示するための議論が行われている。さらに、江向華(京都女子大学)若手の会リーダーを中心に若手研究者の会が設置され、若手研究者間での研究交流が活性化しており、第 28 回全国研究大会前の理事会後には若手研究者を中心とした懇親会が開催される予定である。

基盤強化に関しては、こうした取り組みを着実に推進していくことに加えて、社会に対する発信や学会誌の国際ジャーナル化などを通じて、より一層学会の魅力を高めていく必要がある。社会に対する発信に関しては、学会として各種シンポジウムやセミナーなどを共催・後援していくとともに、学会 HP などを通じて内外に発信していくことが大切となる。この点については、曽我寛人総務委員長(釧路公立大学)を中心に定期的に学会 HP の更新や JAFAME ニュースの発刊が行われている。国際ジャーナル化については、今村一真編集委員長(茨城大学)を中心として、学会誌の投稿規定の改定や審査プロセスなど各種規定の見直しを進めるとともに、将来的な国際ジャーナル化へ向けて取り組むべき課題等に対する議論が活発に行われている。

最後に、第 28 回全国研究大会(江向華実行委員長・亀岡京子実行副委員長・河知延プログラム委員長)では、例年より多くの報告者が集まり、統一論題では JETRO 調査部長の若松勇氏に「グローバルサプライチェーン再編の見直し」について講演いただき、基調講演では長年にわたり京都の産業政策の中心的役割を果たして来られた前京都副知事・現参与の山下晃正氏を基調講演に招聘し、産学公の連携の可能性や本学会に対する期待について講演いただき、京都の老舗ファミリービジネス経営者も参加する予定である。また、国際セッションの基調講演では、タイ王国キングモック工科大学の Charoenchai Khomtraporn 氏(題目 : Circular Economy in Thailand: A Case of Battery Recycling)による講演を予定している。さらに、GARC セッションでは、実務と理論の融合について、商学、経済学、経営学各分野の研究者がパネルディスカッションを行う予定である。

以上は学会活動の一例であるが、昨今の厳しい環境で学会を発展させていくには、実践的な裏付けのある理論の構築が不可欠となると同時に、実践に対する理論からの接近も必要とされており、理論と実践の融合をより一層進めていくためにも国際化(アジア化)と社会との連携は不可欠である。こうした活動を通じて、2023 年 11 月時点から海外会員数(中国・タイ)は 10 名、学会員は 9 名増加しており、研究者のみならず社会人

大学院修了者をはじめとした実務家の入会も増加傾向にあるなど国際化・社会化を通じた基盤の強化を進めている。今後も引き続き、学会として質の高い研究を深化させていくと同時に、学会員の交流を深めることで本学会の強みである学際性を活かし、社会との接点を増やしていくことで、理論と実践の融合によるアジアの発展へと寄与していくことが期待されている。

村松潤一前会長のリーダーシップのもと本学会が総意として示した基本方針である「国際化(アジア化)」と「社会との連携」の推進をさらに堅固なものとし、歴代会長・理事・先生方によって築かれた当学会の伝統を引き継ぎながら、さらなる発展に尽力して参りたいと存じますので、今後も先生方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2024 年 6 月 6 日

アジア市場経済学会会長　藤岡資正

（２）運営委員会・理事会開催状況

・2023 年度第 1 回理事会

開催日時　2023 年 7 月 7 日 18:00～18：30 開催場所：東京経済大学

・2023 年度臨時会員総会

開催日時　2023 年 9 月 17 日 15:00～15：45 開催場所：Zoom

・2023 年度第 2 回理事会

開催日時　2023 年 9 月 17 日 13:00～14：15 開催場所：Zoom

・2023 年度第 3 回理事会

開催日時　2023 年 11 月 18 日 13:00～14:20 開催場所：Zoom

・2023 年度第 4 回理事会

開催日時：2024 年 3 月 17 日 13:30～14:50 開催場所：Zoom

・2023 年度第 5 回理事会

開催日時：2024 年 6 月 28 日 16:00～17:30 開催場所：京都女子大学

2　副会長報告

（東部）

・　3 月 2 日に東部部会研究報告会を予定していたが中止となった。

（西部）

・　日本貿易学会西部部会ならびにアジア市場経済学会西部部会合同研究報告会の開催

2023 年 2 月 10 日に、日本貿易学会西部部会ならびにアジア市場経済学会西部部会合同研究報告会を、広島経済大学立町キャンパスにて開催した。

計 3 名の方より報告があり、アジア市場経済学会西部部会からは、

鈴井清巳先生（京都産業大学）より、「EU の通商政策に組み込まれたアジア太平洋地域の地政学・地経学的要素ー最近の事例を素材にー」というテーマにてご報告頂いた。

3　総務委員会報告

・　本学会 WEB ページにおける事務局連絡先および役員名簿の更新。
・　本学会　WEB ページにおける第 27 回（2023 年度）全国研究大会開催に関する案内の掲載。
・　本学会 WEB ページにおける合同部会に関する案内の掲載。
・　本学会 WEB ページにおける学会会則等に関するページの修正作業。
・　JAFAME ニュース No.26 の発行。

4　研究委員会報告

（1）日本貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会

日時：2024 年 2 月 10 日（土）14:00～17:00

場所：広島経済大学

（2）アジア市場経済学会第 28 回全国研究大会

日時：2024 年 6 月 29 日（土）～30 日（日）

場所：京都女子大学（対面）

（3）SIG の公募

新規採択者（課題解決型）：1 件

継続採択者（理論実証型）：1 件

（4）学会賞（著作）の公募および内規の修正

応募者 1 名、選考委員会が発足し審査

学会賞（著作）内規を修正→資料 1 参照

5　編集委員会報告

・　編集委員会は査読委員と合同の委員会を、6 月までに計 7 回開催した。
・　具体的な活動としては、新しい研究論文の審査体制を構築した

・オンライン・プラットフォームの利用
・審査や評価の観点、評価水準についての共通認識の醸成
・継続して審査する場合の方法の確立
・J-Stage と学会ウェブページの横断的な活用についての検討
・書評の取り扱いについての検討　など

6　国際交流委員会報告

7　グローバルアジア研究センター

以下の活動を実施した。

・　第1回会議　2023年10月22日（日）13時から　出席者15名

メンバーから自分の研究上のテーマとGARCへの期待（各３分程度）①

・　第2回会議　2023年11月19日（日）13時から　出席者13名

メンバーから自分の研究上のテーマとGARCへの期待（各３分程度）②

・　第3回会議　2023年12月10日（日）13時から　出席者14名

実務家のメンバーまたは外部から、日系企業のアジア進出について個別企業事例の紹介

① 松本誠也先生「サービス視点から捉えた生命保険営業の現状と課題に関する研究 - P 社の事例を通した価値共創について」

② 楊歓歓先生「コマツの戦略地域でのビジネスと国際戦略 -アジアとアフリカを中心に」

・　第4回会議　2024年2月3日（土）13時から　出席者14名

実務家のメンバーまたは外部から、日系企業のアジア進出について個別企業事例の紹介

① 鈴木一央先生（andAsia株式会社）「地方中小企業の海外進出 -エンベデッドネス理論に基づく進出モデルの実証的研究-」

② 橋口久先生（プライアント株式会社）「ポストコロナ・地方中小企業の生存戦略～プライアント株式会社のリバースイノベーションとPMIの事例紹介～」

・　第5回会議　2024年3月14日(木)15.30 - 17.00(日本時間)*タイ時間13.30 - 15.00

タイ国チュラロンコン大学サシン経営大学院サシン経営大学院サシンホール(9F)

ハイブリッド開催　出席者15名

①はじめに 藤岡資正アジア市場経済学会会長「セミナーの主旨等」

②基調講演 村松潤一グローバルアジア研究センター長「製造業のサービス化：価値共創マーケティングからのアプローチ」

③事例紹介 松本洋之氏（Director, Commercial Solution Group, Bridgestone Sales

(Thailand))「ブリヂストンの価値共創：タイを含めたグローバルな取り組み」

④事例紹介 川野敦史氏（ Canon Marketing (Thailand)：Senior Project Manager ）「製造業におけるお客様との共創事例について」

⑤パネルディスカッション 村松センター長、松本氏、川野氏、藤岡会長(聞き手)

フロアからの質疑含む

・　第6回会議　2024年5月25日（土）13時から

各分野（経済系、商学系、経営学系）の研究方法理論と実践の融合方法、到達モデ

ルに関する議論

①経営学系　中村友哉先生

②商学系　張婧先生

・　第7回会議2024年6月1日（土）13時から

各分野（経済系、商学系、経営学系）の研究方法理論と実践の融合方法、到達モデルに関する議論

経済系　中井教雄先生

・　その他

① Webページを作成

https://garc-jafame.localinfo.jp/

② リサーチプロジェクトが理事会で承認された。

１プロジェクト１年５万円の予算が承認された。１プロジェクトは２年間実施する。

申し込みは２件で、２件共採択された。（資料２）

③ 第28回全国研究大会2日目でパネルディスカッションを開催する予定である。

8　社会連携WG報告

・　2023年度は、産学連携強化としてGARC会議（第1回2023年10月22日～第7回2024年6月1日）に実務家メンバーとともに参加。

・　第3回GARC会議（2023年12月10日）で、当WG幹事の松本誠也氏が発表された。

9　若手の会

・　2023年度には、「若手の会」のミーティングを6回ほど行っていました。主に、ローテーションでメンバーに最新の研究を発表してもらい、さらに皆でディスカッションするという形で進めてきました。また、情報交換の場としても活用してきました。

10　日本経済学会連合評議員報告

・　日本経済学会連合『英文年報』第44号への投稿

【英文タイトル】

Information Bulletin of The Union of National Economic Associations in Japan

【編集プロセス】

·初稿〆切：2024年7月31日

·校正：2024年10月中旬

·発刊：2024年12月中旬

11 決算報告（資料３）

12 監査報告（資料４）

Ⅱ　2024 年度事業計画および予算案

1　会長挨拶

会長　藤岡資正
（明治大学大学院グローバルビジネス研究科教授）

村松潤一前会長のリーダーシップのもと本学会が総意として示した基本方針である「国際化(アジア化)」と「社会との連携」の推進をさらに堅固なものとし、歴代会長・理事・先生方によって築かれた当学会の伝統を引き継ぎながら、さらなる発展に尽力して参りたい。

そのためには、学会の強みである研究活動を強化していくと同時に、若手研究者の育成やアジアを中心とする海外研究機関や研究者との交流、そして産官(公)との連携の強化、対外的な情報発信などに加えて、組織体制・各種規定・予算編成などの見直しが必要になってくるものと考えられる。たとえば、組織体制については、国際交流委員会および GARC の活動内容が重複してきていることもあり、両者の統合などについて検討をしていきたい。各種規定については、学会誌の投稿規定や学会賞（著作)・口頭発表賞などについて各委員会での検討事項を理事会での協議のうえ対応を進めていきたい。学会賞については、規定の改定が長年行われていないことから編著書の取扱い等についても、河委員長を中心として現在検討を進めている。今後は学会として社会との連携や国際化を進めていくことから、実務書や国際的な研究成果についても別途賞を設けるなどの対応を検討していきたい。また、学会賞にかかわる予算措置について、昨年度は事務局予備費で対応をしたが、今後は担当委員会に予算を組み入れることを検討していく。

今後も引き続き、学会として質の高い研究を深化させていくと同時に、学会員の交流を深めることで本学会の強みである学際性と国際性を活かし、社会との接点を増やしていくことで、理論と実践の融合を通じてアジアの発展へ寄与していきたい。

今後も先生方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

アジア市場経済学会会長　藤岡資正

2　副会長報告

（東部）

・　部会研究会が全国報告大会に組み替え予定となっており、この新制度を成功裏に導くため研究委員会と密に連絡を取りながら進めて行く。

・　編集委員会、国際交流委員会との連携を強化する予定である。

（西部）

・　日本貿易学会西部部会等の合同部会開催

3　総務委員会報告

・　JAFAME ニュースの発行

2024 年 6 月末を目処に、JAFAME ニュース No.27 の発行を目指す。

・　本学会 WEB ページの更新

4　研究委員会報告

・　第 29 回全国研究大会

2024 年 7 月（予定）に第 29 回全国研究大会を開催する

・　部会研究会

冬季全国研究大会 1 回、日本貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会 1 回を開催する。

① 2024 年 12 月初旬に冬季全国研究大会（名称は仮）（オンライン）を開催する。

募集期間は 10 月～11 月初旬であり、簡易審査はあり、学会口頭賞は対象外とする。

（プログラム委員：東西副会長、および、研究委員会）

② 2025 年 2 月 8 日（土）に日本貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会を開催する。場所は広島経済大学で対面・オンラインのハイブリッド開催とする。

・　SIG の公募

課題解決型、理論実証型の両方を募集する。（継続は 1 件）

・　2024 年度学会賞（著作）の公募を行う。

5　編集委員会報告

・　学会ウェブページの改修（論文検索について）をこの委員会で予算化する必要があれば業者に見積もりをとります、対応についてきちんと決めることができておりません

6　国際交流委員会報告

7　グローバルアジア研究センター

・　本大会で「理論と実践の融合」をテーマにパネルディスカッションを開催

パネリスト:経済系 中井 教雄(広島修道大学)、商学系 張 婧(金沢大学)、
経営学系 中村 友哉(兵庫県立大学)
ファシリテーター：村松 潤一(岐阜聖徳学園大学)

・ 昨年度と同様に６～7 回ほどの会議を開催し、「理論と実践の融合」の実体化を図る。具体的には、理論の実践的な解釈、実践の理論的な解釈を繰り返す中で、融合のための方法論を探る。
・ 上記の成果については、書籍としてまとめ、GARC として情報発信する。
・ サシン経営大学院日本センターとの共同事業の可能性について探る。

8 社会連携 WG 報告
・ 引き続き GARC と共に共同で実施していく。
・ 年間に４回程度研究会を開催する予定。
・ 会員の意見要望を受けながら実施していきたい。
・ ゴールは全国大会の報告後、GARC 村松先生のご意見をうかがいながら、本として刊行をめざしたい。

9 若手の会
・ 2024 年度には、引き続き研究発表及び討論を行い、情報交換も行っていく予定です。さらに、共同研究の可能性や、最新の研究方法や研究図書の輪読、学会への貢献方法についても共に模索していく予定です。これからの進め方に関しては、第 28 回全国大会における「若手の会」ランチ・ミーティングで議論する予定です。まだメンバーではない方でも気軽にご参加して頂ければ幸いです。

10 日本経済学会連合評議員報告

11 予算案（資料 5）

Ⅲ 会員の入退会について(入退会者一覧 2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)

2023 年度中の入退会者（敬称略）
・入会者：33 名
・退会者：11 名
2024 年 6 月 28 日時点会員数 205 名（正会員 173 名,院生会員 13 名,海外会員 15 名,名誉会員１名,シニア 3 名）
*会員資格変更 2 名（正会員からシニア会員への変更 1 名、海外会員から正会員への変更 1 名）

Ⅳ その他

（資料１）

学会賞＜著作＞（20240607）

②―１　選考委員会を予め設置しない場合（現行のまま）の内規改正（資料の提出先は事務局）

②―２　共著者も学会員である必要性を明記するための改正

変更前	変更後（令和6年（2024年）6月29日改正）
（申　請） ４．学会賞および奨励賞を推薦または申請しようとする会員は、前年１月１日より12月末日までに刊行された著書、論文ならびに内容要約書（2000字以内を各3部）を１月末までに選考委員会に提出しなければならない。	（申　請） ４．学会賞および奨励賞を推薦または申請しようとする会員は、前年１月１日より12月末日までに刊行された著書、論文ならびに内容要約書（2000字以内を各3部）を１月末までに学会事務局に提出しなければならない。学会事務局は書類を確認後、選考委員会へ提出するものとする。
予め選考委員会が設置される場合、黄色いマーカー部分の改正は必要なし。	
るアジア市場経済にかかわる歴史、理論及び実証研究に関するものであること。	二．著書または論文は、本学会の目的であるアジア市場経済にかかわる歴史、理論及び実証研究に関するものであること。
三．応募者は自薦または他薦による。（他薦の場合は本人の了解を得ること）	三．応募者は自薦または他薦による。（他薦の場合は本人の了解を得ること）
四．いずれの場合も、学会員３名の推薦者（原則として同じ分野の方）を選び推薦者の連名で推薦書（3000から4000字とする）を作成し、選考委員会宛に提出する。但し、推薦者については、応募者と同じ大学・研究機関等からの推薦者がある場合は、１名とする。	四．いずれの場合も、学会員３名の推薦者（原則として同じ分野の方）を選び推薦者の連名で推薦書（3000から4000字とする）を作成し、選考委員会宛に提出する。但し、推薦者については、応募者と同じ大学・研究機関等からの推薦者がある場合は、１名とする。
五．推薦者は、当該著書及び論文が学会賞にふさわしい内容を十分に備えている諸点を具体的に指摘し、特に、どこが従来見られなかった独自の視点と内容をもつ知見であるかを明示すること。	五．推薦者は、当該著書及び論文が学会賞にふさわしい内容を十分に備えている諸点を具体的に指摘し、特に、どこが従来見られなかった独自の視点と内容をもつ知見であるかを明示すること。
六．応募者申請の際に公募条件遵守の承諾書を提出すること。	六．応募者申請の際に公募条件遵守の承諾書を提出すること。
（選　定）	（選　定）

審査の対象とする著書、論文の選定は、本学会の目的に合致する学術領域に鑑みて選考委員会が選定する。 二. 応募者は、本学会全国大会や本学会運営に積極的に参加もしくは携わり、平時から本学会活動への貢献が認められること。 三. 選考委員会に提出された著書・論文及び内容要約書等の検討次第で、応募受諾を見合わせることもある。	審査の対象とする著書、論文の選定は、本学会の目的に合致する学術領域に鑑みて選考委員会が選定する。 二. 審査対象者（共著者含む）は、本学会全国大会や本学会運営に積極的に参加もしくは携わり、平時から本学会活動への貢献が認められること。 三. 選考委員会に提出された著書・論文及び内容要約書等の検討次第で、応募受諾を見合わせることもある。

（資料２）

アジア市場経済学会

グローバルアジア研究センター（GARC）リサーチプロジェクト申請書

2024 年 2 月 18 提出

プロジェクト名称	日本企業のアジアグローバル競争力研究会
リーダー	氏名（フリガナ）　村松潤一　（ムラマツジュンイチ） 学会登録 e-mail: jmura@gifu.shotoku.ac.jp　TEL: 080-3621-1260（携帯）
活動目的・内容	これまで、日本企業のグローバル競争力は、主にモノづくりの視点から議論されてきたが、現時点でみるなら、必ずしも十分な理論的・実践的成果が得られたとは言い難い。むしろ、所有から利用へといった消費者意識の変化、急激な ICT（情報通信技術）の進展、S-D ロジック、S ロジックといった新たなロジックの提唱を背景に、考え直すべき時期に来ている。 そこで本研究会では、こうした新たに生まれた背景をパラダイムシフトとして捉え、日本企業におけるグローバル競争力を再構築することにした。具体的には、新たな背景から生み出される理論的フレームワークと主としてアジア市場に進出した日本企業を対象にした調査研究の結果を相互に関連付けることを繰り返しながら、日本企業の新たなグローバル競争力モデルを提示するものとする。
研究期間	2024 年 4 月 ～　翌年 3 月（毎年度、継続申請が必要。）
リー	リーダー　村松潤一（岐阜聖徳学園大学・教授）

ダー・メンバー（所属・役職）、不足する場合は欄を追加して下さい	メンバー　藤岡芳郎（大阪産業大学・教授） 江　向華（京都女子大学・准教授） 張　婧　（金沢大学・講師） 梁　庭昌（富山国際大学・講師） 林　釗　（帝京平成大学・講師） チャン・ティ・トゥイエト・ニュン（愛知東邦大学・助教）
予定報告会（リアル・オンライン）	①　2024年4月　（キックオフミーテグ　） ②　2024年6月　（センターセッションでの研究枠組の発表　） ③　2024年11月予定（　調査、結果の分析　） ④　2025年2月予定　（　まとめ　）
その他・特記事項	

アジア市場経済学会

グローバルアジア研究センター（GARC）リサーチプロジェクト申請書

2024年2月17提出

プロジェクト名称	ASEAN企業の国際化研究会
リーダー	氏名（フリガナ）　藤岡資正（フジオカ　タカマサ） 学会登録e-mail：taka.fujioka@sasin.edu　TEL：08046371177
活動目的・内容	これまで日系企業のASEAN展開に関する研究は蓄積されてきたものの、ASEAN地場企業の国際化に関する研究は必ずしも十分ではない。そこで本研究会では、こうした地場企業の国際展開に関するデータを様々な角度から収集・分析することで現状把握に努め、将来的な仮説構築・検証へ向けた予備的考察を行う。
研究期間	2024年4月　～　翌年3月（毎年度、継続申請が必要。）
リーダー・メンバー（所属・役職）、不足	リーダー　藤岡資正（明治大学・教授） メンバー　Prof. Jittima Tongurai（神戸大学・教授） Dr. Chaipong Pongpanich（Assoc. Prof., Sasin School of Management, Chulalongkorn University） Dr. Charoenchai Khompatraporn（Assoc. Prof., King

する場合は欄を追加して下さい	Mongkut’s University of Technology Thonburi (KMUTT))
	三浦佳子（長崎県立大学・准教授）
	松本誠也（プルデンシャル生命保険㈱・シニアライフプランナー）
	橋口久（プライアント㈱・代表取締役社長）
	鈴木一央（andAsia㈱・取締役）
予定報告会（リアル・オンライン）	⑤　　年　　月（未定　　）
	⑥　　年　　月（　　）
	⑦　　年　　月（　　）
	⑧　　年　　月（　　）
その他・特記事項	

（資料３）

（資料４）

（資料５）

以上

[1] . 2024 年度　第 1 回理事会

開催日時：2023 年 9 月 22 日(日)　13:30～14:45
開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）
藤岡資正、石川雅啓、曽我寛人、石川和男、岡田康孝、亀岡京子、小森正彦、田畠真弓、松尾仁、中井教雄、江向華、河知延、飯島高雄、星田剛、今村一真、高橋義仁

（出席：16 名、委任状：4 通）

会計監事（敬称略）

趙時英

幹事（敬称略）

稲田圭祐、岩尾詠一郎、大崎崇生、春日尚雄、許佑旭、藤岡芳郎、村松潤一、張婧

本部事務局　張婧、瀬古清太郎

議題・報告事項

(1)　会長より
(2)　東西副会長より
(3)　各委員会からの活動計画・報告
(4)　web ページ改修について（資料１）
(5)　学会誌の通巻表記および ISSN の新規設定について（資料２）
(6)　第 28 回（2024 年度）全国研究大会についての報告
(7)　第 29 回（2025 年度）全国研究大会について
(8)　2024 年度予算案（資料３）
(9)　30 周年記念事業準備委員会
(10)　会員の入退会について
(11)　その他

議事録

(1) 会長より、2024 年度の活動計画について資料通りに説明があった。

(2) 東西副会長より、2024 年度の活動計画について資料通りに説明があった。
中井西部副会長より、2024 年度の日本貿易学会との合同部会について、2025 年 2 月に広島で開催する方向で調整中であるとの報告があった。

(3) 各委員会、GARC、WG、若手の会から、資料に基づく活動報告の説明があった。
河研究委員長より、冬季全国研究大会の準備状況について、別途資料に基づく報告があり、12 月 7 日（土）にオンラインで開催予定であること、また要旨の締め切りを 11 月 4 日（月）に設定するとの説明があり、了承された。
今村編集委員長より、資料に基づく活動報告があった。全国研究大会の受賞者向けの投稿案内および審査ルールの考案についての提案があり、編集委員会で検討することが了承された。
藤岡会長より、日本経済学会連合評議員としての活動報告があり、英文年報が既に提出済みで、12 月中に発刊予定であるとの説明があった。

(4) 曽我総務委員長より、Web ページ改修について資料 1 に基づく説明があり、審議の結果、承認された。

(5) 今村編集委員長より、学会誌の通巻表記および ISSN の新規設定について資料２に

基づく説明があり、審議の結果、承認された。

(6) 江実行委員長より、第 28 回全国研究大会の参加状況（参加者 77 名）について報告があった。また、次年度から全国大会担当校への補助費を 10 万円から 20 万円に引き上げること、大会参加費にシニア会員料金および院生会員料金を別途設定することを提案した。審議の結果、承認された。

(7) 張第 29 回全国研究大会実行委員長より、大会の準備状況について報告があり、2025 年 2 月に日程を確定し、全会員に案内するとの説明があった。

(8) 張事務局長より、前回の理事会で承認された 2024 年度予算案について資料３に基づく説明があり、今回の理事会で承認された全国大会担当校への補助費の変更を反映するとの提案があった。

(9) 村松準備委員会メンバーより、30 周年記念事業の準備活動について、シンポジウムなどの開催を企画しているとの報告があった。

(10)　会員の入退会について張事務局長より説明があり、承認された。

(11)　その他 なし。

以　上

（資料１）

Ⅰ．Web ページ改修の件：作業費 154,000 円

・ページの統廃合

✓「ご入会の案内」と「会員情報変更申請」を統合し、「ダウンロード」ページとする。

※新たに、学会投稿に関わるテンプレートや以下の文言等も掲載。

アジア市場経済学会では、学会誌掲載原稿はすべてテンプレートに沿って作成することにしている。

執筆にあたっては、所定のテンプレートとなるファイル（Microsoft Word のファイル：A4 判用紙（210×297mm）横書き、1 枚(1 ページ) 26 字×39 行×2 段組＝約 2,000 字（英語論文の場合は 1 枚（1 ページ）約 750words)）を用いて作成する。タイトル、執筆者情報、要約、主要なキーワード、章や節のつけ方、参考文献の表記などはすべて、テンプレートに記載があるので、その指示に従って執筆することを原則とする。

なお、原稿の量は 10 ページ以内とし、そこにタイトル、概要、図表および参考文献等全てを含むものとする。ただし、原稿最後に記述する英語表題部は含まない。

提出された原稿は、編集委員会で受け付け、査読審査を行う。審査の過程で修正指示があった場合、期日までに修正する必要があるほか、要求を下回る修正が示された場合や、修正できない状況に陥った場合は、編集委員会で掲載不可と判断する。

✓上記統合により、空いたページを「学会誌」のページにする。

・学会誌のページの作成

・アイコンの修正

TOP
プロフィール
全国大会・東部部会・西部部会
学会誌(Journal)
その他の学会活動
役員名簿
学会会則等
ダウンロード(Download)

・英語ページも上記同様に改修

✓Journal のページは、英文タイトルを記載の予定。
参考（J-stage　日本コミュニケーション研究）
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/comm/53/1/_contents/-char/en

Ⅱ．ダウンロードページの和英併記化

作業費や今後の更新のことを鑑みて、日本語版のダウンロードページに英文も併記する。
※現在の「ご入会の案内」のようなイメージです。
ダウンロードページを英文化する際には、アプライドではなく学会側で英文原稿を作成する必要がある。この際、投稿要項や会員情報変更申請書についても英文化する。
上記に際して、英文作成・校正費が発生する。

更新の手順

１．上記のⅠの実施（学会誌やダウンロードのページの作成・更新）
（この段階では、ダウンロードページは和文のみ。）
２.上記のⅡを実施(和文のダウンロードページを基にして、英文作成・英文校正。)
３．ダウンロードページの和英併記版を更新。

（資料２）

・報告事項１．のとおり、『アジア市場経済学会誌』には、３本の論文が掲載される見通しです。
※2024 年 6 月 29 日施行の内規の変更に基づきます。
・巻号についてですが、旧学会誌（『アジア市場経済学会年報』）の最終巻が「2023 年 26 巻」となっています。
審議内容１）したがって、新学会誌（『アジア市場経済学会誌』）は「2024 年（通巻）27 巻」とします。
審議内容２）また、年間 2 回の刊行としていますが、実態としては 1 回のみとなりました。そこで「第 1-2 号」とします。
※J-Stage のウェブページについては、旧学会誌と新学会誌を区別する必要がありますので、トップ

ページは別に用意することになります。ISSN も新たに付されます。

２．学会誌タイトルの変更にかかる ISSN の新規設定について

新しい学会誌の ISSN は、2759-6656　です。

J-Stage に新しい学会誌を示すトップページが用意され、そこに ISSN が示されれば手続きは完了です。このあと、国際文献社の担当者と協議しながら作業を進めます。

審議内容３）新設する J-Stage のウェブページについて、ご意見があればお伺いします。

（資料３）

[2] .2024 年度　第 2 回理事会

開催日時：2023 年 11 月 30 日(土)　13:00～14:05

開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）

藤岡資正、石川雅啓、石川和男、岡田康孝、小森正彦、江向華、河知延、飯島高雄、今村一真、高橋義仁

（出席：10 名、委任状：9 通）

会計監事（敬称略）

柯麗華

幹事（敬称略）

大崎崇生、松本誠也、藤井博義、チャン・ティ・トゥイエト・ニュン、藤岡芳郎、村松潤一、張婧

本部事務局　張婧、瀬古清太郎

議題・報告事項

(12)　会長より（資料１）

(13)　各委員会からの報告

(14)　来年度全国研究大会について（資料２）

(15)　会員の入退会について

(16)　その他

議事録

(12)　会長より、2024 年度の活動報告について資料（1）通りに説明があった。

(13)　東西副会長および各委員会、GARC、WG、若手の会から、資料に基づく活動報告の説明があった。

・　河研究委員長より、SIG の応募状況について説明があった。今回の応募は単独研究であり、共同研究を条件とする SIG の募集要件を満たしていないため、不採択と判断したとの報告があった。この件について審議を行い、その結果、了承された。

・　河研究委員長より、資料を用いて SIG の募集時期変更に関する説明が行われた。審議の結果、この変更案は了承された。

・　今村編集委員長より、投稿論文の査読審査の進捗状況について報告があり、12 月中に 4 本の論文が J-stage に掲載される予定であることが共有された。また、2025 年度の『アジア市場経済学会誌』について、1 号（6 月）と 2 号（12 月）の 2 回に分けて発刊する案が提案され、審議の結果、提案は了承された。

・　高橋国際交流委員長より、GARC をはじめとする国際交流計画への賛同に伴い、2025 年 3 月 20 日に予定されている SIAM 大学との学術交流会を含む関連計画に業務協力を行う旨の報告があった。

・　藤岡日本経済学会連合評議員より、10 月に開催された第 2 回評議委員会について報告があり、会計の中間報告、英文年報第 44 号の発行予定、および日本国際経済学会の退会に関する報告が行われた。

(14)　張実行委員長より、資料 2 を基に第 29 回全国研究大会の開催予定、実行委員会の構成メンバー、ならびにタイムスケジュールについて説明があった。また、統一論題および趣意書についても説明が行われ、審議の結果、提案は了承された。

(15)　会員の入退会（新規入会 1 名、退会 2 名）について藤岡会長より説明があり、承認された。

2024 年 11 月 30 日時点会員数 202 名、内正会員 170 名（休会 1 名含む）、院生会員 12 名、シニア会員 4 名、海外会員 15 名、名誉会員 1 名。

(16)　その他

・　瀬古事務局メンバーより、2025 年 3 月 19 日に開催予定の GARC 研究会に向けた準備状況について報告があった。

・　選挙の準備状況について、西部副会長と総務委員長が連携して進めている旨の報告があった。

・　東部副会長の役割分担について議論が行われ、編集委員会および国際交流委員会との協力業務に加え、東部独自の研究会の実施や他学会との提携による部会企画などが確認された。

以上

（資料１）

会長挨拶

会長　藤岡 資正
(明治大学グローバルビジネス研究科専任教授)

昨年の学会長就任にあたって掲げた方針は、以下の３つでございます。これら３つは互いに関連するものであり、村松潤一前会長の基本方針を引き継いだものであります。第一に社会に開かれた学会とすべく「社会との連携」を深化させること、第二に既存会員はもとより、若手研究者やアジアを中心とする海外研究者にとっても魅力ある学会とするべく「国際化を推進」すること、第三に学会活動を支える「基盤強化」であります。残りの任期におきましても、これらを深化させて参りたいと思いますが、ここまでの取り組みを簡単に振り返りたいと存じます。

① 「社会との連携」を具現化させるための取り組みとして、村松潤一センター長・藤岡芳郎副センター長を中心としてグローバルアジア研究センターが発足し様々な活動を始めており、定期的に研究会が行われております。これまでの参加者の構成をみると研究者と実務家会員がほぼ半数ずつとなっており若手研究者も多く含まれています。

② 「学会の国際化や基盤強化」の取り組みとして、曽我委員長のご協力のもと従来よりもタイムリーな形でウェブ上での活動が発信されております。また、学会共催・後援という形で国内外の様々なセミナーやシンポジウムを企画・運営し、来年３月には(日程は未定)、バンコクにてセミナーを開催する予定となっています。こうした取り組みを強化していくことで、学会の国際化や産官学との連携を一歩踏み込んで進めて行きたいと考えております。

③ また、若手研究者の研究発表の場を確保するということで、学会誌への投稿につきましては、年一回の投稿から随時募集となりました。このことを踏まえて、編集委員会(今村一真委員長)のほうで、編集規定や査読プロセスなどの改定等を進めることで体制を整えていただいたことで、通年で研究成果を論文として投稿する機会が提供されることになりました。大変な作業を引き受けていただきました今村一真委員長(茨城大学)をはじめとする編集委員の先生方に改めまして感謝申し上げます。また、江向華先生のリーダーシップのもと若手の会が定期的に開催され、活発な研究交流がなされております。

④ 本年度からの新たな試みといたしまして、近畿大学の河委員長のリーダーシップのもと、遠隔にて冬季全国研究大会(12 月)が企画されております。また、日本貿易学会と

の研究会につきましても、西部副会長の中井教雄先生を中心に引き続き開催していくとのことでございます。

はやいもので、2024 年も終わりに近づいております。第 28 回全国研究大会(京都女子大学)が終了したばかりだと感じておりましたが、そろそろ来年度の第 29 回全国研究大会についての概要をまとめる時期となりました。金沢大学張先生のご尽力により、来年度は 2025 年 6 月 27(理事会)、28、29 日に金沢大学で開催させていただく予定でございます。この場をお借りして、御礼申し上げます。なお、全国研究大会の実行委員長は、張先生、副委員長には京都女子大学の江向華先生にご快諾いただいております。なお、実行委員は、これまでの慣行に倣い、会長、副会長、事務局長、各委員長で構成されます。また、プログラム委員長は近畿大学の河知延先生にご快諾を頂いております。

これから年末そして年始のお忙しい時期ではございますが、来年度の全国研究大会における学会報告者の募集やプログラム内容の確定など、様々な形で皆様のご協力を賜りますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、ここまでの活動を簡単にアップデートさせていただきました。こうした活動は、会員はもとより、それぞれの委員及び委員長、WG メンバー及びリーダー、そして、 東西副会長、本部事務局長のご理解とご協力を得られたことによるものであり、ここに深く感謝申し上げます。本学会は、「アジアの時代 21 世紀」を見据えて創立されたものであり、 世界におけるアジアのプレゼンス、アジアにおける日本のプレゼンスを一層高めるためにも、学会のさらなる飛躍は強く望まれています。会員皆様のこれまで以上のご支援をもとに「産学連携と国際化の推進」と「基盤強化」を一層推し進めていきたいと考えておりますので、引き続きましてよろしくお願い申し上げます。

（資料２）

第 29 回全国研究大会について

2024 年 11 月 30 日

１．開催時期、場所、方法

- 2025 年 6 月 28 日(土)、29 日(日)、理事会は 6 月 27 日（金）
- 金沢大学角間キャンパス
- 対面

２．実行委員会

・委員長　　張　　婧（金沢大学）
・副委員長　　江　向華（京都女子大学）
・委員　　学会執行部（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局）

３．プログラム委員会
・委員長
研究委員長　　河　知延（近畿大学）
・国内セッション委員長
編集委員長　　今村　一真（茨城大学）
・国際セッション委員長
国際交流委員長　高橋　義仁（専修大学）
・センターセッション委員長
GARC センター長　　村松　潤一（岐阜聖徳学園大学）
・委員　　学会執行部
（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局、GARC 副センター長）

４．タイムスケジュール
（１）2024 年 11 月　　統一論題及び趣意書の承認（理事会）
（２）2024 年 12 月下旬　開催案内／発表希望案内の発信（実行委員長：張）
①国内セッション（担当：実行委員会）
・発表希望の申込先は実行委員会（副委員長：江先生）
・メールにて発信及び HP 掲載（本部事務局）
②国際セッション（担当：国際セッション委員会）
・海外会員に案内メールの発信（発表希望の申込先は国際セッション委員会）
③センターセッション（担当：GARC）
（３）2025 年 1 月下旬　発表希望締め切り
（４）2025 年 3 月下旬　発表希望者は、審査用発表要旨（テンプレートに従い、A4 で 4 頁）、公開用発表要旨（テンプレートに従い、A4 で 1 頁）をプログラム委員会に提出

（5）2025 年 4 月中旬　発表の採否を決定し、通知（担当：プログラム委員会）

（6）2025 年 4 月下旬　開催校における部屋割り（担当：実行委員会）

プログラム作成／公開（担当：プログラム委員会）

①国内セッションの統一論題報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知（担当：国内セッション委員長）

②国際セッションの基調報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知（担当：国際セッション委員長）

③センターセッション　発表の場合、コメンテーターの選定（担当：GARC センター長）

（7）2025 年 5 月初旬　公開用発表要旨の公開（担当：プログラム委員会）

（8）2025 年 6 月 27 日（金）理事会

（9）2025 年 6 月 28 日（土）～29 日（日）全国研究大会（28 日会員総会）

＊（注）口頭発表賞について（運営はプログラム委員会が担当）

2023 年度から、優れた口頭発表に対して、表彰する

手順①審査用発表要旨をもとに優秀口頭発表候補を決める

手順②候補にあがった口頭発表に赴き、候補に相応しいかの審査を行う

手順③審査用発表要旨及び口頭発表の審査結果を総合的に判断し、口頭発表優秀賞を決定し、後日報告する。

５．統一論題および趣意書

アジア市場経済学会 第 29 回(2025 年)全国研究大会
統一論題及び趣意書

文化的多様性と経済成長：アジア経済における適応とイノベーション

近年、アジア経済の成長は目覚ましく、多様な文化的背景を持つ国々がそれぞれの発展を遂げる中で、グローバル経済との相互関係が一層深まっている。アジアは、人口規模や市場の多様性から見ても、世界経済の成長エンジンとして重要な位置を占めており、その中で文化的な多様性がどのように経済政策に反映し、そして、経済活動に影響を与えているか、また、企業がどのようにして文化的多様性を取り込んでいるのか等、明らかにすべき課題もそこから見えてくる。

アジアの文化的多様性は、単なる地域特性に留まらず、経済政策、経済活動や企業戦略に深く関わる重要な要素である。異なる文化や価値観のもとでの経済政策が、消費者の市場行動に影響を与え、それが企業の競争戦略やイノベーションの動機となり、地域経済ごとの適応力が競争力の源泉として重要視されるようになっている。

従来、アジアの経済成長は豊富な資源や労働力に依存してきたが、今後は文化的多様性に対する柔軟な適応と新しい価値を生む創造性が成長の鍵を握ると思われる。

第 29 回全国研究大会では、アジア市場が多様な文化的背景とどのように共存し、成長しているかについて、多角的な視点から議論を深める場を提供したいと考えている。文化的多様性は、これまで、克服すべき課題として捉えられがちであったが、実際には豊かな異文化交流によってさまざまな成長機会が生まれている。各国の市場状況や産業の発展段階が異なることで、独自の適応策やイノベーションの契機が得られ、異文化間の理解と協調によって新たな競争力が生み出されている。

例えば、多様な文化的特性のもとでなされる経済政策の違いが経済成長にどのような差異をもたらしているのか、また、多様な消費者ニーズや異なるビジネス慣行あるいは規制環境に応えることで企業はどのようにして新たな競争力を構築しているのか、といった研究課題を「適応とイノベーション」といった視点から明らかにすることは、きわめて関心の深いものといえる。言い換えれば、こうした異文化への適応は、企業に限

らず、地域や国レベルにおける様々な経済組織において求められているのであり、それは、何らかのイノベーションが原動力となるとともに、そのこと自体が新たなイノベーションの源泉とも成り得る。必要なことは、文化の違いを真摯に理解し、地域の特性を活かしつつ、持続可能な経済成長あるいはビジネスモデルをグローバルな視点から構築することにある。

第 29 回全国研究大会では「文化的多様性と経済成長」を中心テーマに据え、アジア経済の発展における可能性と課題を討論し、理論と実務の両面から新たな研究の方向性を探る契機としたいと考えている。アジア経済における文化的多様性の意義と、それがもたらす経済成長の可能性についての深い理解を得るとともに、学術と実務の観点から貴重な知見を提供する場となることを期待している。

会員各位による学術的議論と経済政策立案や企業行動における戦略的アプローチの考察を通じて、新たな視点からの洞察が共有され、アジア市場経済学のさらなる発展が促されると確信している。また、本大会を通じ、次世代におけるアジア市場経済学の可能性がさらに拓かれることを期待している。

2024 年 12 月吉日

アジア市場経済学会

第 29 回全国研究大会実行委員会、プログラム委員会

[3] .2024 年度　第 3 回理事会

開催日時：2025 年 3 月 29 日(土)　13:00～14:05
　　開催場所：Zoom

出席理事（敬称略）
　石川雅啓、岡田康孝、小森正彦、江向華、河知延、飯島高雄、今村一真、高橋義仁、亀岡京子、曽我寛人、田畠真弓、星田剛、松尾仁

（出席：13 名、委任状：5 通）

会長
　藤岡資正
会計監事（敬称略）

柯麗華、趙時英

幹事（敬称略）

大崎崇生、松本誠也、藤井博義、チャン・ティ・トゥイエト・ニュン、藤岡芳郎、村松潤一、張婧

本部事務局　張婧、瀬古清太郎

議題・報告事項

(17)　会長より

(18)　東西副会長および各委員会・WG からの活動報告

(19)　第 29 回全国研究大会について（資料 1）

(20)　理事選挙の準備

(21)　会員の入退会について

(22)　その他

会員情報メンテナンス

議事録

(17)　会長より、前回理事会以降の学会活動について資料通りに説明があった。

(18)　東西副会長および各委員会、GARC、WG、若手の会から、資料に基づく活動報告の説明があった。

- 曽我選挙管理委員長より理事選挙の立候補者の自薦・他選者がいなかつたと報告された。
- 今村編集委員長より、全国研究大会のプログラム内に、編集委員会・査読委員会によるワークショップとして、「研究論文の書き方」を説明し、意見交換の場を設けると提案した。審議した結果、本提案を承認した。全国研究大会初日（6 月 28 日）に 1 時間の枠を確保し、編集委員会・査読委員会が主導して、具体的な内容・講師を決定することについて合意した。

(19)　張実行委員長より、資料 1 を基に第 29 回全国研究大会の準備状況ついて報告があった。

(20)　藤岡会長より、理事会推薦理事（東部 4 名、西部 7 名）のリストについて説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

(21)　会員の入退会（新規入会 3 名、退会 2 名）について張事務局長より説明があり、承認された。

2025 年 3 月 29 日時点会員数 204 名、内正会員 170 名（休会 1 名含む）、院生会員 13 名、シニア会員 4 名、海外会員 16 名、名誉会員 1 名。

(22)　その他

・　張事務局長より、2025 年度春季の会員メンテナンスの予定を資料通りに説明した。

以上

（1） 会長より

会長挨拶

会長　藤岡資正　（明治大学/チュラロンコン大学サシン経営大学院）

本学会の基本方針として、社会との連携、国際化の推進、基盤強化という 3 つを掲げ諸先生方の協力のもと様々な取り組みを進めてきました。

まず、社会との連携の深化及び国際化の推進については、2023 年度に発足したグローバルアジア研究所(GARC)を中心として、定期的な勉強会の開催、各種セミナーの共催などを通じて産官学の連携が着実に進みつつあります。直近では、2025 年 3 月 19 日にジェトロの共催で「第 3 回価値共創セミナー」を開催し、黒田ジェトロバンコク所長の開会スピーチにはじまり、村松 GARC 所長による基調講演、JAXA 所長、マツナガ(株)現地社長による講演があり、約 80 名の参加者がありました。

また、2024 年に東海大学・亀岡先生のご紹介で国際交流委員会(専修大学・高橋先生ら 3 名)がバンコク・サイアム大学を訪問したことを契機として、その後に数度の調整を経て、2025 年 3 月 20 日にアジア市場経済学会より 9 名が正式にサイアム大学を訪問し、今後の研究交流関係の構築について意見交換をいたしました。また、当日は、サイアム大学からは、博士課程の学生 7 名をはじめ 10 名の教職員が参加し、当学会から現地参加に加えて、ズームにて 15 名の先生方が参加をされるなど国際研究交流の契機となる有意義な場となりました。

本学会では、2023 年より、チュラロンコン大学サシン経営大学院コンサルティング部門(日本センター)と連携をすることで在タイ日系企業経営者及び政府機関の方々の交流の促進を目的としてタイ・バンコクでのセミナーを定期的に開催してきました。こうした取り組みを通じて、アジアの第一線で活躍する実務家や政府関係者と学会所属の研究者との接点を創出することを目的としております。これに対して、サイアム大学との連携は、若手研究者の育成も含めたよりアカデミックな研究交流を意図しており、その他の大学とも連携をしながら、将来的にはアジア部会を 2 年毎に開催できるように進めて参りたいと考えています。この度の訪問を受け、本年度の全国研究大会国際セッションの基調講演にはサイアム大学学長を招聘し、GARC 国際セッションとしてサイアム大学より博士課程の学生の報告を予定しております。

また、年末には、近畿大学・河先生のご協力でズームにて本学会としては初の試みとなる冬季研究大会が開催され、京都女子大学・江先生を中心とする若手研究者の会も継続的に開催されるなど研究交流も活発化しています。さらに、若手研究者の研究発表の場を確保するということで、学会誌への投稿につきましては、茨城大学・今村先生のご尽力により、年一回の投稿から随時募集となりました。編集委員会(今村一真委員長)のほうで、編集規定や査読プロセスなどの改定等を進めることで体制を整えていただいたことで、通年で研究成果を論文として投稿する機会が提供されることになっております。このほかにも、多くの委員の先生や学会員の先生方の協力のもと、様々な取り組みが行われており、詳細につきましては、各委員長よりご報告があるかと思います。こうした取り組みにつきましては、学会 HP へのアップデート(曽我総務委員長)そして GARC の HP へも随時アップデートされており、社会に向けての発信も強化して参りたいと存じます。

最後に、第 29 回全国研究大会は金沢大学(張大会実行委員長・江副委員長)にて 6 月 27(理事会)、28、29 日に開催されます。プログラム委員長の河先生を中心として現在、プログラムの最終調整をしているところでございます。昨年の京都大会に引き続き、本年度の全国大会も盛会となりますよう取り組んで参りますので、引き続きまして、様々な形で皆様のご協力を賜りますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（2）東西副会長および各委員長からの活動報告

（東部部会）

- 冬季全国研究大会が研究委員長の尽力により開催された。
- 副会長として閉会の挨拶を行った。
- 東部の副会長は編集、国際交流担当であるため、編集委員長および国際交流委員長に連絡を取った。
- 編集委員会は毎月会合が開催されており、1 月の会合に参加させていただいた。非常に活発な議論が行われており、充実した委員会活動が実現できている。
- 国際交流委員会は廃止の予定である。高橋義仁先生から東北経済連合会・産学連携学会との交流が提案され、本学会東部部会の復活の可能性が出てきている。

（西部部会）

- 研究委員会と協力し、「日本貿易学会西部部会ならびにアジア市場経済学会西部部会合同研究報告会」を、広島経済大学立町キャンパスおよび Zoom にて、ハイブリッド形式で開催した。なお、今回の西部合同部会において、アジア市場経済学会からの報告者はいなかった。また、実地開催においては、本学会の新本寛之先生（広島修道大学）にご尽力頂いた。本理事会の場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。
- 総務委員会と協力し、本学会トップページに掲載の動画更新編集作業を実施している。

・　選挙管理委員会を立ち上げ、曽我総務委員長の指揮のもと総務委員会と協力して、来たる理事選挙に関わる準備作業を行っている。

総務委員会

〇総務委員会報告

・web ページの更新を行った。

・中井副会長の支援の下でトップページに掲載の動画更新編集作業を実施している。

・来たる理事選挙に関わる準備作業を行っている。

〇理事選挙の立候補者について

研究委員会

・　部会研究会について

①　第 1 回冬季全国研究大会を 2024 年 12 月 7 日に開催した。

②　貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会を 2 月 8 日に開催した。

・　SIG 採択について

2024 年度は採択者なし

2025 年度は 5 月に応募を開始する（研究期間）

・　学会賞・論文賞について

応募者なし

編集委員会

１．学会誌の運用について

・新学会誌の運用を開始

－2024 年（第 27 巻）に掲載された論文は 5 本

－2025 年（第 28 巻）に掲載された論文は 1 本（2025 年 3 月 7 日現在）

※今後査読審査を通過した論文は、随時公開できる体制になっている

・ISSN について

－新学会誌の ISSN は 2759-6656 で運用を開始

※但し、国立国会図書館の対応は運用開始以降に問題があれば指摘するというかたちなので、今後何らかの修正や変更が必要な可能性がある

※今のところ、旧学会誌から通巻で運用しているが、これらについて修正の指摘がある可能性もある。現段階においては問題なし

・3 月 7 日現在、2 本の投稿があり査読審査中

２．運用上の課題

－投稿者が編集委員会を介さずに出版社に掛け合い、原稿の修正を依頼するケース有

※著者の所属の標記の修正依頼であり、すでに依頼を受け入れて修正済

★著者の申し入れを出版社が受け入れてしまったほか、ISSN の試験的な運用段階でもあり公開前だったので、依頼を受け入れた

（今後の方針）

一度アップロードした論文の修正は、基本的に行わない。なぜなら、閲覧するつど原稿の内容が異なる状態を、学会として許容できないから。また、修正依頼を投稿者が直接出版社に申し出ることもなしとする。少なからず修正に（時間的なものも含めて）コストが生じるほか、費用はまとめて学会がお支払いするから。

３．その他

－全国大会のプログラムの中に、編集委員会・査読委員会のワークショップとして「研究論文の書き方」を説明して意見交換する場を用意したい

※熱心な若手投稿者の中には、査読審査結果を不本意として異議の問い合わせが入る場合や、微修正したものを再投稿するケースが見受けられる。ほかにも、そもそも審査が厳しくなったとして、投稿自体を控えるケースも見受けられるため、いわゆる“勘どころ”を明確にできれば、積極的な投稿が期待できるのではないか

国際交流委員会

・ 前年度に交流訪問を行ったサイアム大学との交流をアジア市場経済学会レベルに引き上げるべく、主体的に交流を計画した GARC の活動をサポートした。

グローバルアジア研究センター

①これまで進めてきたアジア市場経済学における「3 分野の統合的把握」と「理論と実践の融合」という方法論の精緻化を進め、その考え方について、2025 年度会員総会で承認を得る。そして、これまでの活動成果（学会本体も含む）の書籍化を目指し、全会員に向けて趣旨説明した後、原稿募集、選考、執筆、校正を経て、2026 年度会員総会までに出版を終える。

2025 年 4 月　2025 年度第一回会議、研究発表、書籍化に向けた編集方針の確認、全国研究大会における GARC セッションの内容（RP 成果発表を含む）の決定

6 月　全国研究大会（金沢大学）総会で方法論の承認、書籍化方針の説明、出版作業スケジュールの披露

8 月～1 月までの GARC 会議で、執筆原稿に基づく発表および内容精査

2 月、3 月　GARC 会議での研究発表

② 学会の国際化・社会化に向けた東北経済連合会との連携の具体化を図る。

③ 2027 年に学会の創立 30 周年記念事業に迎えるが、GARC として、そこでの事業計画を進める。

④ 2025 年度に新たに GARC リサーチプロジェクトを募集する。
⑤ サイアム大学などアジアの大学、研究者との連携について検討する。

産学連携 WG

以下の GARC 活動に参加。
2024 年
・10 月 20 日（日）: RP1～江先生、RP2～鈴木先生
・12 月 15 日（日）: RP1～チャン先生、RP2～橋口先生
2025 年
・2 月 23 日（日）: RP1～村松センター長、RP2～岩井先生
・3 月 20 日（木）: サイアム大学（タイ国）
JAFAME-Siam University Research Meeting
橋口氏、百目鬼氏参加
前半部分（両者自己紹介、研究報告）(Zoom 参加)

若手の会

・ 2024 年度 第 3 回「若手の会」
日時 2025 年 2 月 22 日(火) 10：00－11：35
場所 Zoom 開催
参加者 (敬称略)
張善会（岡山理科大学),張婧（金沢大学), 中井教雄（広島修道大学),曽我寛人（釧路公立大学),中村友哉(兵庫県立大学),江向華(京都女子大学)
欠席者 王慧娟（山口大学),橋口 久（プライアント株式会社）,洪性奉(摂南大学),
松本誠也（プルデンシャル生命保険株式会社）,章超(同志社大学大学院)

内容
(1) メンバーの研究発表(張善会先生)
張先生は、観光産業における文脈マネジメントについて、価値共創マーケティングの視点から観光客のオフライン体験とオンライン体験を統合して考察を行ってこられたが、今回はその中間発表だった。その後は質疑応答を行い、活発な議論を行った。
(2) 学会関連の連絡事項：曽我先生、中井先生、張先生から案内等があった。
(3) 次回の開催
5 月 24 日(土) 10：00～ (1 時間半程度)

日本経済学会連合評議員

・　英文学会紹介が、『日本経済学会連合英文紀要』2024 年第 44 号の pp. 1-10 に掲載されております。

（２） 第 29 回全国研究大会について

（資料１）

第 29 回全国研究大会について

１．開催時期、場所、方法
・2025 年 6 月 28 日(土)、29 日(日)、理事会は 6 月 27 日（金）
・金沢大学角間キャンパス
・対面

２．実行委員会
・委員長　　張　　婧（金沢大学）
・副委員長　　江　向華（京都女子大学）
・委員　　学会執行部（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局）

３．プログラム委員会
・委員長
研究委員長　　河　知延（近畿大学）
　・国内セッション委員長
編集委員長　　今村　一真（茨城大学）
　・国際セッション委員長
国際交流委員長　高橋　義仁（専修大学）
　・センターセッション委員長
GARC センター長　　村松　潤一（岐阜聖徳学園大学）
　・委員
学会執行部（会長、東西副会長、各委員長、本部事務局、GARC 副センター長）

４．タイムスケジュール
　（１）2024 年 11 月　　統一論題及び趣意書の承認（理事会）
　（２）2024 年 12 月下旬　開催案内／発表希望案内の発信（実行委員長：張）
①国内セッション（担当：実行委員会）

・発表希望の申込先は実行委員会（副委員長：江先生）
・メールにて発信及び HP 掲載（本部事務局）
③ 国際セッション（担当：国際セッション委員会）
・ 海外会員に案内メールの発信（発表希望の申込先は国際セッション委員会）
③センターセッション（担当：GARC）

（3）2025 年 1 月下旬　1 月 31 日（金）発表希望締め切り
→2 月 16 日（日）迄延長
（4）2025 年 3 月下旬　発表希望者は、3 月 31 日（月）まで、審査用発表要旨（テンプレートに従い、A4 で 4 頁)、公開用発表要旨（テンプレートに従い、A4 で 1 頁）をプログラム委員会に提出
（5）2025 年 4 月中旬　発表の採否を決定し、通知（担当：プログラム委員会）
（6）2025 年 4 月下旬　開催校における部屋割り（担当：実行委員会）
プログラム作成／公開（担当：プログラム委員会）
①国内セッションの統一論題報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知（担当：国内セッション委員長）
②国際セッションの基調報告者、自由論題報告者、座長、コメンテーターの選定、及び通知（担当：国際セッション委員長）
③センターセッション　発表の場合､コメンテーターの選定(担当:GARC センター長)
（7）2025 年 5 月初旬　公開用発表要旨の公開（担当：プログラム委員会）
（8）2025 年 6 月 27 日（金）理事会
（9）2025 年 6 月 28 日（土）～29 日（日）全国研究大会（28 日会員総会）

＊（注）口頭発表賞について（運営はプログラム委員会が担当）
2023 年度から、優れた口頭発表に対して、表彰する
手順①審査用発表要旨をもとに優秀口頭発表候補を決める
手順②候補にあがった口頭発表に赴き､候補に相応しいかの審査を行う
手順③審査用発表要旨及び口頭発表の審査結果を総合的に判断し、口頭発表優秀賞を決定し、後日報告する。

（4）理事選挙の準備

2025 年度選挙にともなう推薦理事案（2025.3.25）

東部	定員 12 名（改選 4 名）			
継続理事	池部　亮	専修大学	佐脇英志	都留文科大学
	石川雅啓	日本貿易振興機構	許　佑旭	明治大学

	齋藤典晃	高千穂大学	藤井博義	立正大学
	曽我寛人	釧路公立大学	藤岡資正	明治大学
新理事	石川和男	専修大学		
	岡田康孝	武田商事（株）		
	亀岡京子	東海大学		
	金　炯中	亜細亜大学		
	小森正彦	亜細亜大学		
	田畠真弓	専修大学		
	松尾　仁	東京福祉大学		
	丸谷雄一郎	東京経済大学		
西部	定員 9 名（改選 7 名）			
継続理事	大藪　亮	岡山理科大学	関　智宏	同志社大学
	中井教雄	広島修道大学	張　婧	金沢大学
	江　向華	京都女子大学	林田秀樹	同志社大学
	清水　真	中部大学	柯麗華	静岡県立農林専門職大学
	高砂健二	大阪経済法科大学	中村友哉	兵庫県立大学
	ｸﾞｴﾝ･ﾄﾞｳｯｸ･ﾗｯﾌﾟ	広島修道大学	三浦佳子	長崎県立大学
	河　知延	近畿大学	チャン・ティ・トゥイエト・ニュン	愛知東邦大学
新理事	飯島高雄	近畿大学		
	星田　剛	安田女子大学		

＜新体制における東西部会理事数の算出＞

2025 年 3 月 31 日時点　理事定員 21 名（注）に正会員 168 名（東部会員 99 名、西部会員 69 名）を按分した結果、東部定員 12 名、西部定員 9 名←現行体制と同じ

（注）

現行体制における理事定員 21 名は、以下の会則にもとづいている。

会則

理 事 23 名以内（含、会長・副会長)、うち 2 名については理事会による任命理事とする。理事は会務を運営・執行する。理事の配分ならびに選挙方法に関する事項は別に定める。

＊即ち、23 名―2 名＝21 名

（6）その他

・　会員情報メンテナンス

4 月中旬：情報更新用のサイトを全会員にメールで通知し、HP にリンクさせる

5 月末：締切後、到着分の新情報を学会名簿に反映、メーリングリスト更新。

情報更新サイト利用料発生する（2 か月分）

以上

[4].2024 年度　会計監事推薦案の承認について

審議日： 2025 年 4 月 10 日～4 月 18 日
審議方法： メールによる審議

期日までに異議・意見の提出はありませんでした。
よって、本推薦案は承認されました。

****
アジア市場経済学会 理事会構成員各位

平素は学会活動をご支援いただきありがとうございます。
このたび、理事選挙における会計監事の推薦について、メールにてご審議いただきたくご連絡申し上げます。

推薦者は以下のとおりです。(敬称略)
【東部】
金沢星陵大学　梁庭昌
【西部】
京都女子大学　江向華

つきましては、理事の皆様におかれましては、本推薦案についてご意見・ご異議のある場合のみ、【4 月 18 日（金)】までにご連絡くださいますようお願い申し上げます。
特にご連絡がない場合は、承認いただいたものとさせていただきます。
なお、幹事の皆様には参考までに本ご連絡を差し上げております。審議およびご返信の必要はございません。
ご多用の折、誠に恐縮ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。
（このメールは会長からの指示で学会本部事務局からお送りしています）

Ⅴ．2024 年度海外視察報告

海外視察報告(会長・藤岡資正)

本年度の海外視察は、GARC との共催で企画・運営を行い、2025 年 3 月 20 日にタイ王国サイアム大学にて開催された。当日は、サイアム大学のポーンチャイ学長のオープニングリマークに続き、本学会の紹介そしてサイアム大学の紹介が行われ、その後、村松潤一 GARC センター長による「マーケティング研究における最近の動向：価値共創マーケティングとは何か」、サイアム大学チャイヤート経営学研究科長による「タイにおけるデジタルガバナンスの取り組み」についての研究報告が行われた。アジア市場経済学会からは 8 名が現地参加し、サイアム大学からはポーンチャイ学長をはじめ、副学長、複数の研究科長、大学院生など 15 名が参加した。また、当日はオンラインにて本学会から約 15 名の参加があった。

研究交流後は、サイアム大学学長および研究科長との懇親会が開催され、今後の研究交流に向けて意見交換が行われた。なお、本海外視察は、昨年度に亀岡京子先生および高橋義仁先生らがサイアム大学を表敬訪問したことを契機として、サイアム大学学長より打診を受けて実現したものである。

Ⅵ. 学会賞（著作、口頭発表）選考経緯

研究委員会
委員長　河知延(近畿大学)

（１）学会賞（著作）選考経緯

2023 年度学会賞（著作）の募集に対して 1 件の申請（太田壮哉・坂田裕輔・飯島高雄著『フェアトレードは甘くない』Amazon Services International, Inc., 2023 年 8 月）があり、「学会賞（著作、口頭発表）に関する内規」に従って学会賞選考委員会において申請の適格性（提出書類、対象著作の範囲など）を確認した。その後、審査委員 2 名を選任し、審査票に基づいた審査を行った。その結果、アジア市場に関わる学問向上に資する優れた著書であることが認められたが、理事会では、実用書に近いということから「特別賞」を授与することで承認され、第 28 回全国研究大会の懇親会において表彰された。

（２）学会賞（口頭発表）選考経緯

2023 年度第 27 回全国研究大会の報告希望者が提出した審査用要旨について、「学会賞（著作、口頭発表）に関する内規」に従って、プログラム委員が審査票に基づき 1 次審査を行い、候補者（院生、および、一般）を選出した。2 次審査は口頭発表に関する審査票に基づき研究大会の口頭発表を審査し、最終的に受賞者を決定している。その結果、学会賞は該当なし、奨励賞 1 名、院生賞 1 名となり、第 28 回全国研究大会の懇親会において表彰された。

奨励賞：鈴木一央（and Asia 株式会社）「多国籍企業のタイ・プラス・ワン企業戦略－エンベデッドネス理論を用いた地域戦略の考察－」

院生賞：張佳成（大阪産業大学大学院）「中国市場における電気自動車の流通マーケティング戦略－テスラと BYD の事例をもとに－」

以上